

人間蒸発

ゴールデンランパー

覗きがいっぱい 愛人の生下着

ファイター、北からの挑戦者

マイ・ブロークン・マリコ

ソワレ

クレヨンしんちゃん

嵐を呼ぶ モーレツ!オトナ帝国の逆襲

今度は愛妻家



明日は、
どっちだ？



北見

第8回
日本映画大学
学生企画上映会



映画祭

5.12 [金] → 14 [日]

[会場] 川崎市アートセンター アルテリオ映像館

www.eiga.ac.jp/eigadaifes

主催：日本映画大学 上映企画ワークショップ 共催：川崎市アートセンター/川崎・しんゆり芸術祭実行委員会/川崎市/川崎市教育委員会 後援：「音楽のまちかわさき」推進協議会/NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり/「映像のまちかわさき」推進フォーラム 上映協力：今村プロダクション/東宝/国映/ニューセレクト/ハビネットファントム・スタジオ/KADOKAWA/東京テアトル/東映

©今村プロダクション/©2010「ゴールデンランパー」製作委員会/©国映/©2020 Haegrimm Pictures All Rights Reserved./©2022映画「マイ・ブロークン・マリコ」製作委員会/©2020ソレフィルムパートナーズ/©2010「今度は愛妻家」製作委員会

 [touboueigasai12](https://twitter.com/touboueigasai12)



5.12 [金]

人間蒸発

14:25



監督:今村昌平
キャスト:露口茂、早川佳江、今村昌平
1967/日本/129分/DCP
©今村プロダクション

今村昌平が手掛けた劇場用ドキュメンタリー。失踪した大島^{たかし}を、婚約者である早川佳江と監督の分身である露口茂が追う。二人は7ヶ月の間、大島のかつての恋人や友人に近付くがうまくいかず、**逃げる**、**追う**を繰り返しながら取材を続ける。やがて大島のもう一つの顔が明らかになり、早川は実姉サヨを疑い始める……。混沌としていく人間模様。これはドキュメンタリーなのか、フィクションなのか。監督の仕掛けた演出をぜひ劇場で。(大村)

ゴールデンスランバー

17:05



原作:伊坂幸太郎/監督:中村義洋/
脚本:中村義洋、林民夫、鈴木謙一
キャスト:堺雅人、竹内結子、吉岡秀隆、劇団ひとり、香川照之
2010/日本/139分/35mm
©2010「ゴールデンスランバー」製作委員会

仙台で行われた凱旋パレード中に首相が暗殺された。時を同じくして、宅配ドライバーの青柳は、数年ぶりに再会した旧友から謎の警告を受ける。その後、何者かによって首相暗殺犯に仕立てられた青柳は、警察やマスコミに**追われる**身になってしまう。絶体絶命の中、大学時代の友人の手を借りながら決死の**逃避行**を始めるが……。ひりつく緊張感とスリリングな展開を楽しめる極上の「**逃げる**」エンターテインメント作品。(玉置)

覗きがいっぱい 愛人の生下着

19:55

トーク



原題:『「明日のジョー」は生きてるさ』
監督:本藤新(サウトシキ)/脚本:南極1号(瀬々敬久)
キャスト:小島康志、林田ちなみ、葉月螢、姫ノ木杏奈
1994/日本/55分/R18+/16mm
©国映

生活のためにエロ雑誌のライターをしている朝森高雄は、妻には頭が上がりず関係も冷め切っていた。思いがけなく、本屋の店主が若い女店員の紀子とSMプレイを覗いてしまった朝森は、紀子のことを考えるようになり……。ピンク四天王のサウトシキが監督、瀬々敬久が脚本を変名で担当。様々な人間関係が交錯し、不自由な生活を強いられていく朝森が、明日に向かってどう生きるのか。ピンク映画の枠を超え、胸に刺さること間違いなし。(赤城)

皆さんは、「逃亡」したことはありますか？

ないと思っけていても、実は妄想や夢を抱くことで、現実からの逃避をしたことがあるのではないのでしょうか。そう考えると、案外「逃亡」というものは、身近なものですね。

物理的な逃避、精神的な逃避、逃げることは善なのか悪なのか……「逃亡」にはそれぞれの人の様々な思いや欲望が凝縮されています。

清々しい疾走感とともに、濃い人間模様を味わう体験をしてみてはいかがでしょうか。

企画リーダー：脚本コース4年 赤城杏奈

チームメンバー：

岩崎優実、覃星翼、玉置正義、佐藤アーシャマリア、鷹野友有
大村小雪、鄭大熙、本多俊介、中田千夏子、杉本啓輔/方位

逃亡 映画祭

日本映画大学の授業「上映企画ワークショップ」「映画祭プロジェクト」では、学生がテーマを決めて上映会の企画を練り、作品選定、ゲスト交渉、広報宣伝を手がけ、総仕上げとして映画館での上映会を開催しています。

これまで「団地」「夫婦」「親子」「ディストピア」「ライブ」「手紙」「花」といったテーマを掲げて川崎市アートセンターで特集上映を行ってきました。

今年のお題は「逃亡」。逃げる⇔追うの関係は映画の王道。バリエーションも様々です。

どうぞお楽しみください。

日本映画大学 教授・映画学部長
東京国際映画祭シニア・プログラマー
石坂健治

5.13 [土]

ファイター、北からの挑戦者

14:25



監督・脚本:ユン・ジェホ
キャスト:イム・ソンミ、ベク・ソビン、オ・グアンロク

2020/韓国/104分/DCP

©2020 Haegrimm Pictures All Rights Reserved

北朝鮮から韓国へ逃れてきたジナ。中国に残した父を呼び寄せるため、ボクシングジムで掃除の仕事を始める。やがてボクシングを始めたジナは、彼女の熱意を感じ取った周囲の支えの中、怒りの過去と自身の人生へと立ち向かっていく……。日本に『ケイコ 目を澄ませて』があるなら、韓国には本作がある。華やかではないが淡々と伝わってくる強い響き。彼女の熱望と強烈な眼差しは観客を圧倒させる。彼女の闘いはこれからだ。(鄭)

5.14 [日]

クレヨンしんちゃん

14:25

嵐を呼ぶ モーレツ!オトナ帝国の逆襲



原作:白井儀人/監督・脚本:原恵一
キャスト:矢島晶子、ならはしみき、藤原啓治

2001/日本/89分/35mm

©白井儀人/双葉社・シンエイテレビ朝日・ADK 2001

春日部に誕生した20世紀博。昔懐かしい世界にひたれるテーマ・パークに、大人たちは子供そっちのけで熱中していく。やがて“オトナ”たちは子供たちの前から姿を消してしまう。しんのすけたちは、心が子供に戻ってしまった“オトナ”たちから逃げ切り、“大人”たちを取り返すべく20世紀博に乗り込むが……。子供向けアニメでありながら、今を生きることを考えさせられる、世代を超えた、原恵一監督の不朽の名作。(赤城)

マイ・ブローケン・マリコ

16:40



原作:平塚ワカ/監督:タナダユキ/脚本:向井康介、タナダユキ
キャスト:永野芽都、奈緒、窪田正孝、尾美としのり、吉田羊

2022/日本/85分/DCP

©2022映画『マイ・ブローケン・マリコ』製作委員会

ブラック企業に勤めるOLのシノトモヨは、ある日のニュースで、親友・イカガワマリコがマンションから転落死したと知る。幼い頃虐待を受けた毒親の手にマリコの遺骨が渡ったと知ったシノは、強奪した遺骨とともに、マリコが生前行きたがっていた岬へと向かう。話題のコミックを映画化。遺骨となった親友とともに出た旅で、シノは何を思い出し、見出すのか。主演の永野芽都が魅せる、これまでのイメージを覆すキャラクターにも必見。(赤城)

今度は愛妻家

16:25

トーク



原作:中谷まゆみ/監督:行定勲/脚本:伊藤ちひろ

キャスト:豊川悦司、薬師丸ひろ子、水川あさみ、濱田岳、石橋蓮司

2010/日本/131分/35mm

©2010「今度は愛妻家」製作委員会

有名なカメラマンである北見俊介は、今はろくに仕事もせず不倫を繰り返し、私生活はだらしない。そんな俊介を明るく気立てのやさしい妻のさくらは愛妻甲斐しく世話をしていた。しかし突然、さくらは俊介に愛想を尽かし、家を出ていってしまう。はじめは独身気分になっていた俊介も、次第にさくらのことが気になりだし……。原作は2002年に初演された大ヒット舞台で、昨年には8年ぶりに再演された、夫婦の愛情を描いた感動作。(赤城)

ソワレ

18:35

トーク



監督・脚本:外山文治
キャスト:村上虹郎、芋生悠
2020/日本/111分/PG12/DCP

©2020ソワレフィルムパートナーズ

役者を目指して上京した岩松翔太は、生まれ育った海辺の町の高齢者施設で演劇を教えることになる。そこで出会ったのは職員の仕事をしている女性・山下タカラ。ある事件をきっかけに翔太は、現実に絶望してたずむタカラの手に取り、「かけおち」とも呼べる**逃避行**の旅へ出ることになる。新作『茶飲友達』で注目される外山文治監督が、村上虹郎と芋生悠演じる若い男女の**逃避行**を描いたドラマ。(覃)

トーク
ゲスト

『明きがいっぱい 愛人の生下着』上映後

ゲスト **サトウトシキ** [日本映画大学 教授/映画監督]

1989年『獣-けだもの-』で監督デビュー。「ピンク四天王」の一人で、幅広い題材を扱い透明感のある演出が特徴。独自の世界観がある映画監督として、ピンク映画の枠を超えて映画ファンから支持されている。

『ソワレ』上映後

ゲスト **外山文治** [映画監督]

日本映画学校卒業。長編デビュー作『燦爛-さんさん-』は全国36館公開のロングラン・ヒットを果たし、「モントリオール世界映画祭2014」より正式招待を受ける。その後、「TSUTAYA」CMやPV、コンサート演出と活動の幅も広がっている。

『今度は愛妻家』上映後

ゲスト **行定勲** [映画監督]

『GO』で日本アカデミー賞最優秀監督賞を始め数々の賞を受賞し、「世界の中心で、愛をさけぶ」は興行収入85億円の大ヒットを記録する。若者の恋と葛藤を描いた多くのヒット作品を生み出している。近年はプロデューサーとしても活躍。(以上、中田)

人生は苦しみに満ちている。逃げることは容易でなく、何とか逃げても、また地獄が待っているかもしれない。圧倒的な絶望と恐怖、果てしない危険とほんの少しの希望——「逃亡」には面白い映画の条件が揃っている。

天願大介

[日本映画大学 学長/教授/映画監督・脚本家]

『ソワレ』における逃亡は放熱の証だ。まるで現実から逃れるように、絶望を振り切るように、あるいは甘い駆け落ちのように疾走し、その限りある時間はやがて永遠の欠片となる。

いつの時代も逃亡劇は私達を魅了し、スクリーンを彩り続ける。

外山文治

[『ソワレ』監督・脚本]

タイムスケジュール

5.12 [金]	5.13 [土]	5.14 [日]
14:25 人間蒸発 129分	14:25 ファイター、北からの挑戦者 104分	14:25 クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ モーレツ!オトナ帝国の逆襲 89分
17:05 ゴールデンスランバー 139分	16:40 マイ・ブローケン・マリコ 85分	16:25 今度は愛妻家 131分 + トーク (19:05終了予定) ゲスト 行定勲 [映画監督]
19:55 覗きがいっぱい 愛人の生下着 55分 + トーク (21:20終了予定) ゲスト サトウトシキ [日本映画大学教授/映画監督]	18:35 ソワレ 111分 + トーク (21:00終了予定) ゲスト 外山文治 [映画監督]	 touboueigasai12 

[会場] 川崎市アートセンター

小田急線「新百合ヶ丘駅」北口より徒歩3分
 〒215-0004 神奈川県川崎市麻生区万福寺6-7-1
 TEL:044-955-0107 ※駐車場はございません



上映会WEBサイト

[入場料] 一般 **1100**円 / 学生 **500**円 (各種割引なし/シネマ会員ポイントあり)

主催: 日本映画大学 上映企画ワークショップ 共催: 川崎市アートセンター/川崎・しんゆり芸術祭実行委員会 / 川崎市/川崎市教育委員会 後援: 「音楽のまち・かわさき」推進協議会/NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり / 「映像のまち・かわさき」推進フォーラム 上映協力: 今村プロダクション/東宝/国映/ニューセレクト/ハビ ネットファントム・スタジオ/KADOKAWA/東京テアトル/東映

